



発行日 = 2009年11月25日 発行人 = 面出 薫 編集 = 矢野大輔・三宅博行・井本有衣子  
照明探偵団・事務局 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-28-10 ライティングプランナーズ アソシエーツ内 (矢野 大輔)  
TEL : 03-5469-1022 FAX : 03-5469-1023 e-mail : office@shomei-tanteidan.org http://www.shomei-tanteidan.org

# 照明探偵団通信

vol. 35 Shomei Tanteidan Tsu-shin

## 国内調査レポート

東京調査：下北沢

「光の湖底に沈む街」

(2009/7/31)

## 海外調査レポート

中国調査：北京・天津

「はりきるペキン

－オリンピック、建国60周年を経て－」

(2009/10/17-20)

## 照明探偵団倶楽部活動 1

Transnational Tanteidan Forum 2009

in Beijing

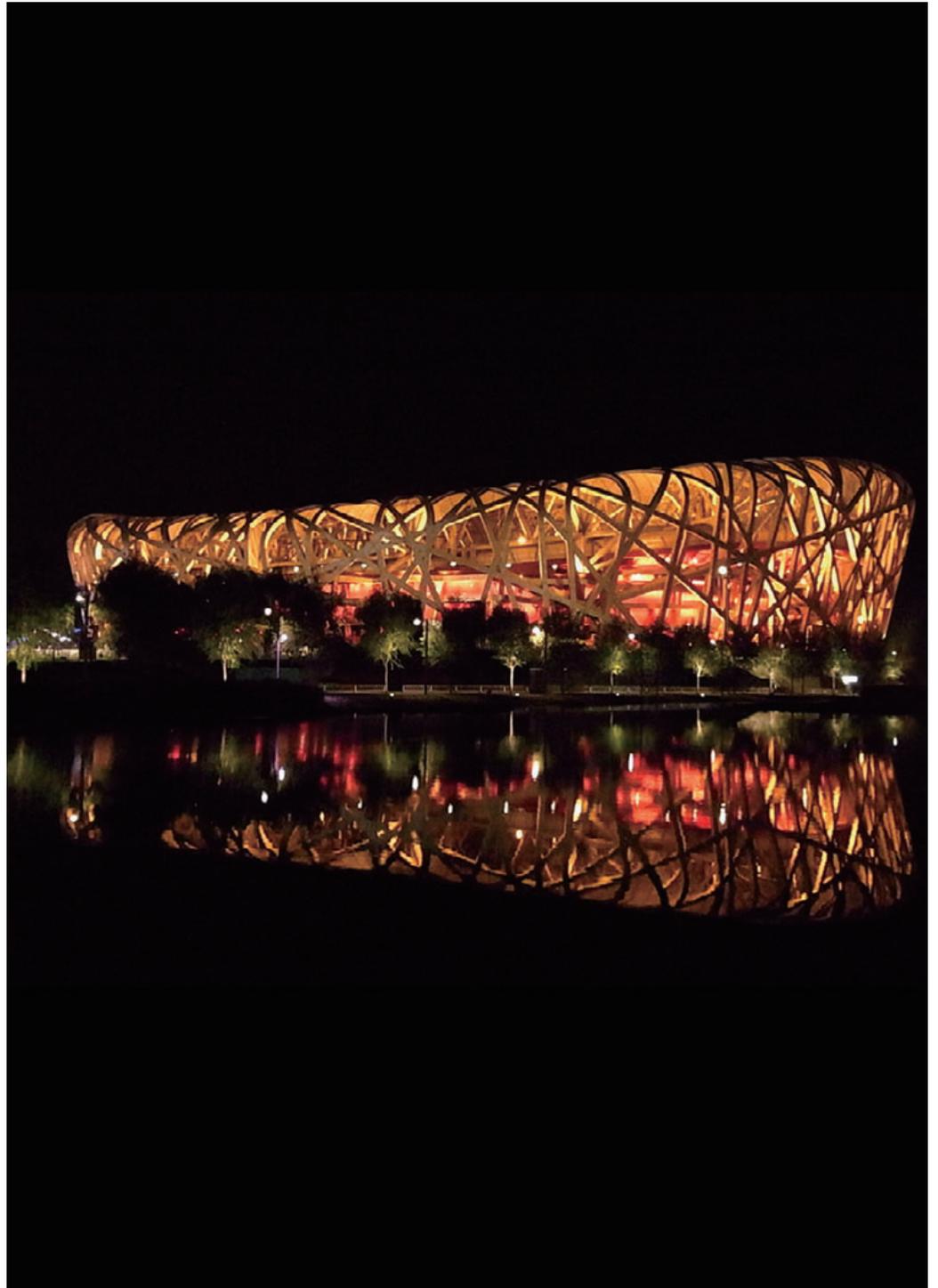
(2009/10/13-16)

## 照明探偵団倶楽部活動 2

第 37 回街歩き Tokyo City Keiba

トウインクルレース

(2009/10/23)



“鳥の巣” (北京国家体育場)

# 東京調査：下北沢 光の湖底に沈む街

2009.07.31

三宅博行 + 池田俊一 + 井本有衣子

## ■光の湖底に沈む街・下北沢

下北沢でも他の繁華街と同様、いたるところで光の洪水は起こっている。店先に群がる看板や、店内から溢れ出してくる光の明るさは、新宿や渋谷と変わらない。しかし下北では、路上の光は高さにしたがってすぐに薄まり、頭上そう遠くないところにうつすらと闇が広がっている。ビルの上半分には看板などの光源が少ないこと、道幅が狭く路上の光が上まで届かないことが理由のようだ。この街の夜が、雑然としていながらもなぜか心地のよい落ち着きに包まれているのは、闇の身近さのおかげかもしれない。下北の喧騒に身を委ねていると、静かな光の湖底に沈んでいるように感じられた。（三宅博行）



多くのビルは上に行くにつれて暗くなっていく。上からの景色は、路上の明るさから予想されるより、かなり暗かった。

## ■南口駅前広場

駅前には待ち合わせや行き交う人たちが賑わう小さな広場がある。夜間の照明はというと、人々の活気をよそに何とも味気ない印象を受ける。建設現場の囲いに設置された広場照明の白い光とイルミネーションの青い光、道路の街路灯、店舗から漏れる白い光、ガード下のオレンジ色の光など様々な光の要素があるのだが、全体的に無造作に光が混合しているため、ただ漠然と明るい印象になってしまっている。駅の顔である駅前広場の夜景としては、視点場を持たせたもう少し賑わいを感じるメリハリのある光が望ましいのではないかな。



人々で賑わう駅前広場の様子。視点場を持たない無造作な光の重なりも下北らしいといえ下北らしいが。。



左は南口商店街の入口。駅前広場には路上に座り込んで絵や本を売る人や、楽器を演奏する人などでいつも賑わっている。

## ■南口商店街周辺

南口商店街ゲートをくぐったその先には多くの店舗が軒を連ねる繁華街が続いており、道幅が狭い上に人通りも多いため車はほとんど通れない道となっている。この通りの賑わいは街路灯ではなく店先の光によって作られている。店舗がひしめき合うこの通りでは、店先の内照式看板や提灯、店内から溢れる光の威力はかなり大きい。店舗の光によって路面や向かいの建物がやわらかに照らし出されているため通りに一体感を感じる。民間のあかりが公共空間をつくり出しているのだ。これは狭い路地と小さな店の集積によって形成された下北沢特有の光環境ではないだろうか。（池田俊一）



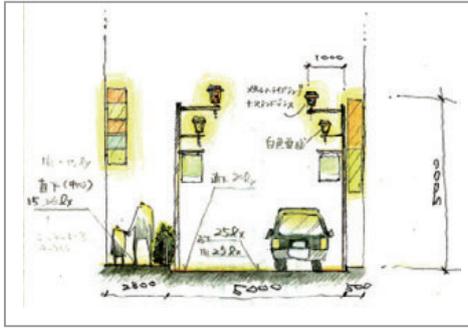
路上の光は、ビルの上部までは届かない。頭上だけでなく、店の間や横の路地など、身近な範囲にたくさんの闇が感じられる。



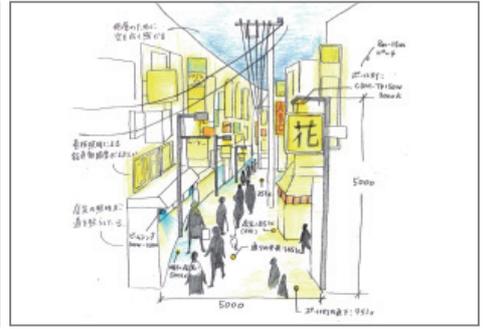
左は南口商店街は活気がある通りで照明も明るく色温度も高め。右はすぐ隣の通りで飲食店が多く、低めの色温度で落ち着いた印象となっている。

■サブカルチャー文化の求心地

なによりもこの街に特徴的なことは、駅周辺に小劇場が数多く、またライブハウスも数多いことで、東京の中で最もサブカルチャーが生き生きと息づいている点だろう。本多劇場は「演劇の街」と呼ばれている下北沢のシンボリックな存在となっている。劇場前には、観劇に来ている人々の賑わいが車道にまでみ出している。けれども私が初めて下北沢を訪れた時は劇場の存在をそんなに感じなかった。おそらく、街全体が雑然としており、さほど劇場がシンボリックな存在感を発していなかったからだろう。もし、そこへ自然と導かれるような光環境があればこの街をもっと楽しめるにちがいない。



本多劇場の前。車道と歩道が別れているものの歩行者中心のこの街にはもはや境界線などない。



南口商店街は鉛直面輝度のみで成り立っていると看做すことも過言ではないほど、看板照明がひしめき合っている。

■未だ残る闇市空間

下北沢北口駅前食品市場と呼ばれるエリアには、いまだ敗戦時の闇市の面影が残っている。ここでは昼間は乾物や衣服などが販売されている。屋根の隙間から差し込む光と軒先の蛍光灯がコントラストの強い風景をつくっているのだが、屋根からもっと自然光を取り入れられる工夫が出来そう。夜間は一変し、飲食店のシャッターが開き、店内からは色温度の低い光が楽しげな店内の賑わいととも通路へ漏れ出す。しかしこのまま再開発が進めば、この市場も取り壊される予定だ。完全に生まれ変わるのではなく、この場所の記憶が残るような開発に期待したい。

(井本有衣子)



左側店舗の外観は大正時代当時のままだが、中はリノベーションされ居酒屋として利用されている。

■昭和の残るザ・スズナリ周辺

小劇場、ザ・スズナリ周辺は下北沢でも特殊な場所だ。商店街からは少し離れ、小劇場とバーが数軒あるだけのこの場所にはごった返すような賑わいはない。しかし、そのレトロな存在感は昭和を思わせるアイコンとして定着し、この場所に欠かせないものになっていた。

(三宅博行)

■下北沢らしさを大切に

東京が急速な社会情勢の変化により、高層ビルの建設や幹線道路の整備が進む中、下北沢は時代に取り残されることでその独自性を生み出していった街なのだと感じた。駅前再開発事業が計画されているが、ただ美しく整然とした景観をつくるのでなく、多様なデザイン要素が絡み合う混沌とした下北らしい空間と、独自の文化を受け継ぐ形で開発が出来ればよいと思う。

(井本有衣子)



店舗から溢れるあかりが通りに明るさと賑やかさをつくり出している。



大きなネオン以外にもレフランプや電球型蛍光灯がむき出しで使われ、内照式の看板もごちゃごちゃとついている。

# 海外調査：北京・天津

## はりきるペキン - オリンピック、建国60周年を経て -

2009.10.17-20

村岡桃子 + 藤井美沙

2008年の北京オリンピック、今年の建国60周年を経て活気付く中国。国家の一大イベントに伴い、北京では道路、地下鉄など交通のネットワークが整備され、以前の大量の自転車が行き交う街から変貌をとげている。急速に変わりつつある街並を調査するため、首都である北京、経済特区として期待されている天津の2都市の調査を行った。

### ■国家威信の光

建国60周年の熱気を帯びた北京・天安門広場。世界最大の広場は、煌々と明るく、夜間も多くの観光客で賑わっていた。建国60周年のパレードにも使用された道幅100mの長安街。この巨大な通りを煌々と照らす街路灯には、8~12個の白色のボール球が付き、その下部には放電灯の投光器が設置され、道幅100mの車道を明るく照らしている。建国60周年のイベントに合わせ、これらの街路灯は一斉整備された。天安門は屋根の形状に沿って電球で縁取りをされ、400Wの投光照明によって大胆に照らし上げられている。床面照度は平均55lx。綿密に管理された光は威圧的で、ポール灯のまぶしさは国家の権威を象徴しているようだった。

### ■胡同・庶民の灯り

元・明・清の3代の王朝によって築かれた平屋の集落である胡同。近年の大規模開発が始まる前の北京は胡同によって街並が形成されていた。昔ながらの小さなスケールの街では、路地のあちこちに小さな灯りがちらばっていた。通りとしてだけではなく生活の場として使われている路地ならではの灯りの風景。玄関先の灯りの元で、住民達がテーブルを囲みながら、夜遅くまでおしゃべりを楽しんでいた。

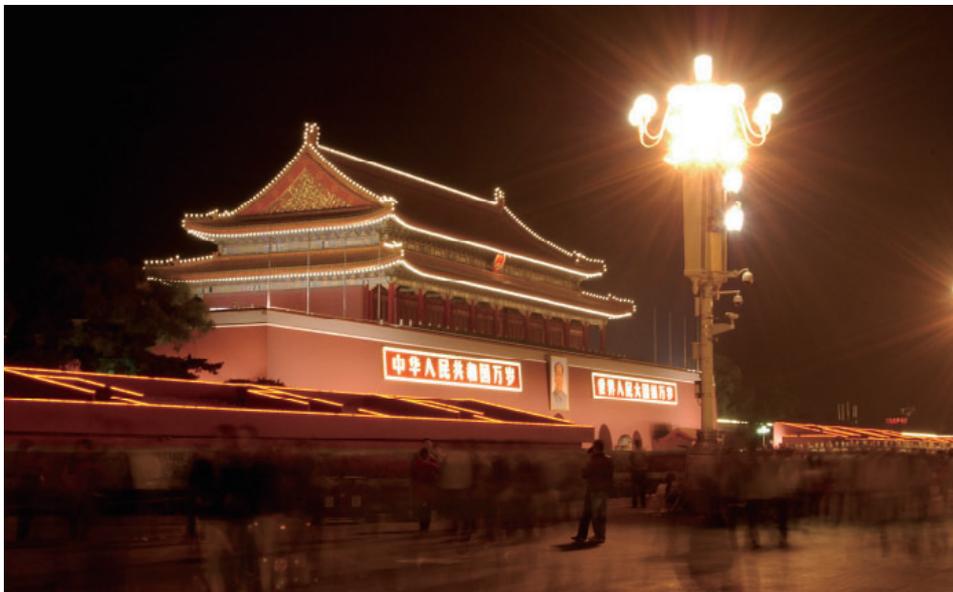
### ■経済発展の灯り

街並を俯瞰すると、大量のテールランプの光、高層ビル群ファサードの光に経済発展で活気づく様子がかがえる。世界的ビジネス街として飛躍を遂げているCBD地区（Central Business District）を中心に高層ビルが林立している。高層ビルの多くは夜間にライトアップされ、ランドマークとして存在しているかのようにシンボリックで華やかだ。カラフルな光に染められた建物も多く見られた。ファサード全面に取り付けられたLED、ワイヤーで空中に吊るされた投光照明など、手法も様々。（藤井美沙）

### ■オリンピックの余韻

北京市内北部に位置するオリンピック公園内に、“鳥の巣”（北京国家体育場）と“ウォーターキューブ”（北京国家水泳センター）はある。現地を訪れたのは、外観照明の消灯時間22時（北京の法規で定められているとのこと）を間近に控えた頃であったが、観光客も多く見られ、それぞれにテレビで見ていた風景を体感している状況を楽しんでいるようであった。22時を過ぎて外観照明が消されると、それぞれの建築はそのフォルムを一層特徴的に浮かび上がらせ、一帯は荘厳さを湛えた静けさに包まれる。

（村岡桃子）



電球で縁取られた天安門、煌々と輝く街路灯。



観光の人力車が胡同の路地を走る。



高層ビルの建築が続くCBD地区の夜景。



公園内のウォーターキューブは荘厳な存在感であった。



天津駅前広場から望むパノラマ夜景。



低い色温度でライトアップされた租界エリアの建築群。



工事中のビルがあちこちに見られる天津の繁華街。

#### ■街の顔となる夜景

北京から東へ150kmに位置する天津は、江南と杭州を結ぶ大運河が作られたことから始まった街。北京からは高速鉄道で30分で結ばれている。駅を降りると、運河が目の前に広がり、天津の街並をパノラマ状に見渡すことができる。運河には多くの橋が架かり、高層ビルの建設が進む。絶好のロケーションの駅前広場は17:00頃から徐々に建物のライトアップがはじまる。主には電球色の蛍光灯、ナトリウムランプによるアップライト。18:00の全点灯時には、水辺にカラフルなLEDが点灯し、水面に写り込む光の相乗効果で、テーマパークのような夜間景観が広がった。

#### ■租界の落ち着いた

天津は、19世紀後半から20世紀前半にかけて欧米諸国や日本の租界が置かれていた。そのため、市内には重厚なたたずまいの古い洋館が多く残され、独特の美しい街並となっている。現在は銀行として使用されているが、観光都市として政府によって整備され、夜間は低い色温度の光でライトアップされる。北京とは違った落ち着いた印象を受ける夜景。建物の様式、ライトアップの色温度がそろえられているため、落ち着いたグレード感がある。夜に天津から北京へと戻る列車の中では、各地からの観光客が皆それぞれデジカメにおさめられた夜景を楽しんでいた。

#### ■光の洪水

発展途中の街・天津では、繁華街でもあちこちで建設が進められている。屋間の街は買い物客と工事業者でごった返していた。夜間は北京の繁華街と同じように、街はスクリーンの大胆な光や広告のネオン管、提灯のカラフルな光で溢れている。工事中の建物が完成するとますます活気づくことが予感される。

(藤井美沙)

# Transnational Tanteidan Forum 2009 in Beijing 開催！

2009.10.13-16

@Guozijian

今年で第8回目となる照明探偵団の世界大会“Transnational Tanteidan Forum”は、オリンピックの賑わいの記憶も新しい北京にて開催されることとなりました。“Enjoy Eco Lighting”をテーマに掲げ、ワークショップとフォーラムが行われました。

■新たな Transnational Tanteidan Forum にむけて  
昨年の第7回ベオグラード大会で Transnational Tanteidan のコアメンバーの拠点を一巡した Forum は、これを区切りにまたひとつ進化を遂げようと、2009年北京大会に向けて新たな試みをいくつか模索していました。そして、今回の北京大会においては、①ワークショップとフォーラムに一貫したテーマ（“Enjoy Eco Lighting”）を持たせること、②ワークショップでは、今まで照明探偵団のアクティビティのキーワードでもあった“光の英雄と犯罪者”から離れた視点で光を観察すること、③フォーラムでは、各都市のプレゼンテーションではなくより即興的な議論ができるような方法をとること、という方針で議論を重ね、準備を進めていきました。  
開催地が北京ということで、日本や欧米の感覚からは規格外な事態も予想されるのでは。。。という若干の懸念をよそに、昨年からの TNT に加わった北京支部の面々の情熱的かつ献身的なサポートによって、地元からも大きな協力を得ることが出来、充実したワークショップとフォーラムになりました。



さまざまな表情の光をもつ北京の街並みは、とても刺激的な調査対象でした。

■ Workshop -Light and Shadow hunt in Beijing-  
2日間に亘って行われたワークショップには、日本、ストックホルム、そして中国の様々な都市から学生が集まりました。1日目、総勢87名のメンバーは5つのチームに分かれ、各チームとも今回のテーマである“Enjoy Eco Lighting”とチームごとに設定したテーマを携え、5つの対象地（“Landmark, Monument”、“Residence”、“Office”、“Commercial”、“Street plaza”）を調査しました。多くの学生が、“光”に注目をした街歩きは初めてということで、新鮮な着眼点の意見も多く、各チーム内では活発な意見が交わされました。また、カメラ、照度計、スケッチブックを片手に、各チーム13-4人がそぞろ歩くということで、地域の方の目を引くことも多かったのか、方々で呼び止められ、“Residence”チームにいたっては、最近省エネの

流れで、住民が集う広場への照明が弱いものになったこと、それによって一帯が暗くなった為にお年寄り達の外出が難しくなった、というお話も伺うことが出来ました。

2日目は、市街調査で得た資料についてチームごとに議論を重ね、それぞれ発表用のスライドとパネルを作成しました。バックグラウンドの違いや言葉の壁がある中で、各チームとも力を合わせ、時間制限いっぱいまで全力で作業をしました。そして、予定より2時間遅れで始まったワークショッププレゼンテーションでは、各チームリーダーであるコアメンバーと学生からそれぞれの対象地について発表が行われました。調査スケッチや記録写真からは、北京が内包する歴史の重厚感と新開発区域のエネルギーとが要所に垣間見え、とても興味深いプレゼンテーションになりました。



市街調査で集めた資料をチームみんなで分析中。



作業を分担してパネルを作成。あっとい間の6時間でした。



プレゼンテーション風景。興味深い分析結果が多く発表されました。

### ■ Forum at Guozijian

北京支部の尽力によって、ForumはGuoZiJian（隋朝からしばらくの間は最高学府として使用され、今では国の重要建造物となっている区画）にて行われることになりました。Forumのために、当日は入り口からレッドカーペットが敷かれ、建物にはライトアップが施されました。

Forumは地域の長のご挨拶とわれらが面出団長の開会の言葉によって幕を開け、KTHの教授でもあるJan先生の司会によって進められました。

今Forumは、“型にはまったプレゼンテーションより即興的な議論を”、ということで、コメンターがフランクに意見交換が出来るように、事前に各支部に光まつわる質問表が送られました。各メンバーはその回答とその質問に関する写真を持ち寄って、各都市の光文化の特徴を交えながらそれぞれの話題を展開させました。Jan先生の絶妙なアシストによって、コメンターが持ち寄った要素がつながりを持ち、全員の発表によって光についての大きな絵を一枚描くことが出来ました。全部で3時間半という長丁場のフォーラムでしたが、聴衆も集中した面持ちで聞き入ってくれ、計画していた内容をつつがなく終えることが出来ました。

Forum後は、会場となった講堂の背面にあるコートヤードでパーティーが催されました。Forum weekが完了したという安堵感と達成感に満たされた、とても楽しいパーティーになりました。

### ■ Forum2010の開催地は。。。。

現在コメンターで議論を重ねていますが、現時点で一番有力なのはインド、ニューデリーです。今後正式な決定を受けて、また皆さんにご報告したいと思います。  
(村岡桃子)



コメンターによるディスカッションは、KTHのJan先生の司会で進められました。



各都市の光の事例をまじえて光に関する活発な議論が行われました。



総勢87名が参加したワークショップは、賑やかにとても楽しく行われました。



フォーラムの会場となったGuozijian（國子監）の門。この日のためにレッドカーペットが敷かれました。

# 第37回街歩き Tokyo City Keiba - トウインクルレース -

2009.10.23

矢野大輔 + 池田俊一

今をときめくさわやかタレントを起用した TVCM により「男臭く近寄りたいたいのでは…」というイメージが払拭されつつある競馬場。我々探偵団は、これまでとは少し趣向を変え、夜の TOKYO CITY KEIBA (大井競馬場) にて、「トウインクルレース」を観戦。レースを運営するために焚かれた、煌々とした照明の下で全力疾走するサラブレッドや、パドックを優雅に歩くさまなどを、探偵団の視点から観察・記録しました。

## ■レーストラックを照らす膨大な光

清々しい秋晴れの夜、我々探偵団は興味津々に大井競馬場へと足を進めた。まず始めに向かったレーストラックでは、所狭しと並んだメタハラ投光器を発見。振り返ると目に飛び込んでくるその殺人的な光の量には団員全員口をあぐり。思わず団長が取り出した照度計は鉛直面照度で軽く1000lxを超えるほど。しかし投光器の光はキチンと狭角配光で制御されていて一面無駄に光を撒き散らすことなく、レーストラック周辺だけを照らし出していた。



綺麗に並んだメタハラ投光器。  
1台2kW。



光を浴びて輝くサラブレッドの美しさに目を瞠る。

## ■馬を見極めるパドックの光。

馬体や歩き方、イレ込み具合など周囲を取り巻くギャラリーは皆ゆつくりと周回する馬に目を光らせていた。そんなシブな雰囲気をも他所に団員たちははじめて見るパドックに感激。綺麗なその馬体は光沢を放ち、見るからにサラサラで艶やかな鬣(たてがみ)には思わず触りたくなってしまふ。煌々と照らし出されたパドックをリズムカルに歩くサラブレッドたちは凛々しく、まさにトウインクルレースのスターだ。たとえ馬の良し悪しはわからずとも、団員それぞれは気に入った馬に希望を託して券売機へと向かったのがあった。  
(池田俊一)



色とりどりの映像がインターバルに花を添える。



券売機で馬券を購入する団員。おぼつか無い手つきながらも楽しそう。

## ■団員レポート

照明探偵団に入会した直後、夜の競馬場で街歩きが開催されると聞き、驚きながらも初めて参加しました。競馬場はギャンブルのイメージが濃く、女性の行く場所ではないと思っている方も多いでしょう。しかし、実際に行ってみるとそのイメージは一変しました。とても広い敷地にある夜の競馬場は、明るい白い光で覆いつくされ、清潔感のある雰囲気なのです！レース場はさらに一際明るく、目が冴えるほどの光が注がれており、その光の中を鍛え上げられた美しい馬が目と鼻の先で走りぬげる様子にみな視線は釘付けでした。また、華道家の假屋崎省吾さん演出のLEDで施されたイルミネーションが同時開催されていたのですが、花や蝶をモチーフにしており、かわいらしく美しく、競馬場を華やかに飾っていました。

このように競馬場は、エンターテイメントに長けた私達を興奮させるような光で満たされていたのです。家族連れ、カップル、女の子同士にも楽しめる場所だと思えるほど、すっかり私のネガティブイメージを一掃した競馬場の街歩きでした。(近藤真里瑛)



パドックを背景に全員集合。お疲れ様でした。

#### ■編集後記

今回の東京調査は、幹線道路が新たに建設される関係で失われる運命にある下北沢の雑多な雰囲気を中心に記録してきました。数年後にはなくなるかもしれない「下北沢らしさ」を探しに、皆さんも一度街を訪れてみてください。

Transnational Tanteidan Forum 2009 in Beijing は今回で8回目を数えました。世界照明探偵団のコアメンバー、地元のデザイナーや学生を合わせてなんと総勢82名もの有志が世界中から参加し、フォーラムを盛り上げました。活発な世界照明探偵団活動は今後も継続して行います。来年もどうぞお楽しみに！

そして久しぶりに行われた夜の大井競馬場での街歩きは、なかなか1人では行けない場所でもあるのか予想外に女性の応募者が殺到しました。参加者にお話を伺うと、探偵団の街歩き企画を待ち望んでいた方ばかり。またすぐに楽しい企画をしなくてはいけない…と気をしっかりと引き締めつつも、その場の雰囲気負けて財布の紐はちゃっかり緩めてしまいました。賭け事は、ほどほどに。次回の通信は、11/13（金）と2/26（金）に新丸ビル10Fエコツェリアにて開催する「第4回／第5回照明探偵団サロン」を中心に取り上げる予定です。興味のある方は、通信だけでなく是非サロン会場にも足をお運びください！

（矢野大輔）

#### 【照明探偵団の活動は以下の20社にご協賛頂いております。】

ルートロンアスカ株式会社  
岩崎電気株式会社  
カラーキネティクス・ジャパン株式会社  
パナソニック電工株式会社  
ヤマギワ株式会社  
マックスレイ株式会社  
DNライティング株式会社  
エルコライティング株式会社  
ウシオライティング株式会社  
株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン  
東芝ライテック株式会社  
コイズミ照明株式会社  
マーチンプロフェッショナルジャパン株式会社  
タルジェットイ ポールセン ジャパン株式会社  
湘南工作販売株式会社  
トキ・コーポレーション株式会社  
山田照明株式会社  
株式会社遠藤照明  
株式会社ウシオスペックス  
森山産業株式会社



探偵団通信に関してのご意見・ご感想等随時受付中です！

お気軽に事務局までご連絡ください。

e-mail:office@shomei-tanteidan.org